

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (尾鷲高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		より豊かに社会生活を営むことができるよう、生徒一人ひとりの生きる力を高める学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・高校教育における基礎的な学力を習得し、さらに自ら学び続けようとする生徒。 ・気持ちのよい挨拶ができる生徒。 ・規律を守ることができ、仕事をする上で必要なコミュニケーション能力が身についた自立した社会人。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・チームワーク良く、明るく風通しのよい職場環境で充実して業務に取り組む教職員。 ・多様な生徒の一人ひとりに応じた適切な指導に取り組むことができる幅広い能力を持つ教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 無事に卒業して進学や就職をしたい。</p> <p><保護者> 卒業して進学・就職してほしい。学習指導と生徒指導を充実させてほしい。</p> <p><地域> 故郷を大切にす生徒を育成してほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><中学校> 生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。</p> <p><保護者> 卒業して進学・就職してほしい。</p> <p><進路先> 挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に入ってきてほしい。</p>		<p><中学校> 生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。</p> <p><保護者> 本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。</p> <p><進路先> 定時制の生徒の進学・就職の機会をさらに増やしてほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>・今後、ICT機器に慣れた生徒が入学してくることも踏まえ、この地域での自治体間の機器等の違いも意識しつつ、どの学校であっても同じレベルでの活用ができるよう、指導していただきたい。また、不登校生徒の受け皿としての役割はもちろん、今後ますます課題のある生徒の入学も予想されるため、対応をお願いしたい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制生徒の実態を踏まえたICT教育のあり方について、職員間で情報共有と共通認識を醸成しつつ、生徒へ対応を検討していく。 ・中学校まで不登校であった生徒が、本校に入学してからは、毎日登校できるようになった例が多い。これが続くよう環境整備の充実を図る必要がある。 ・挨拶の習慣やコミュニケーション力など、社会の中で生きていくための力を高めたい。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校に入学を希望する生徒の実態を踏まえ生徒の学習意欲を喚起し、行事等活性化する取組を進めていく。 ・生徒は「働きながら学ぶ」「学び直し」「静かにゆっくりと学ぶ」など様々な入学動機をもち、進路希望、学力、家庭環境等において多様な生徒が在籍している。生活面でも保護者等と連絡を密にしながら、個に応じた指導を丁寧にしていく必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活を営むうえで必要な基礎学力を定着させる活動を推進する。 ・社会生活を営むうえで必要な規範意識を確立させる活動を推進する。 ・社会生活を営むうえで必要な社会性を身につけさせる活動を推進する。
------	---

- ・生徒に向き合う時間を確保し、教職員が生き生きと職務に邁進できるよう、総勤務時間縮減に努める。
- ・生徒と積極的にコミュニケーションをとり、複数の教職員が関わりながら、きめ細やかな教育相談や支援を行う。
- ・日頃から情報共有を心がけ、統一された指導を展開できる体制を作るとともに、身の回りの整理整頓を心がけ、仕事環境を美しく保つ。
- ・多様な生徒への適切な指導ができるようになるための小研修を随時行い、教職員の資質向上を目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着	(1) 基礎学力を保障する授業を充実させる。 (2) 生徒の学習意欲を引き出す授業の実施に努める。 【活動指標】 (1) 各教科・科目の学習においては、特に基礎的・基本的な部分の徹底を図る。 (2) 個々の生徒に合ったきめ細かな授業と、生徒の学習意欲を喚起する授業の工夫に努め、必要に応じ個別指導を行う。また、将来の進路選択につながる教材を工夫する。 (3) 落ち着いて学べる環境を作るため、授業規律を確立するとともに、授業に集中できない生徒には粘り強く声をかける。 (4) 電子黒板など整備された ICT を活用し、生徒の興味・関心・意欲を引き出すような授業を進める。 (5) 定期考査や評価の在り方を検討し、日々の授業での努力が適切に評価に反映され、生徒の学習意欲につながるよう工夫する。 (6) 将来の進路選択につながる学習を授業の中に生徒に卒業後の目標を持たせたり、集会で授業の意義を考えさせたりして、学習や授業に対する生徒の意識と意欲を高める。 【成果指標】 生徒アンケートで「入学してから自分の学力が伸びていると思いますか」に対して「大いに伸びている」「伸びている」と答える生徒が60%以上となる。	(年度末および適宜記載)	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
規範意識の確立	(1) 登校時や授業の合間など日常的に生徒への声かけを積極的に行い、生徒との信頼関係と生徒理解を深めながら、一人一人の学校生活の充実を図る。 (2) 問題行動やいじめは常に起こりうるという意識を持ち、日頃から未然防止に努めつつ、発生時には迅速かつ組織的に対応する。	(年度末および適宜記載)	◎

	<p>【活動指標】</p> <p>(1) 毎日、生徒の登校時に全教員で登校指導を行い、生徒一人ひとりと挨拶を交わしながら、声をかける。</p> <p>(2) 日頃から生徒の努力を褒めることで、生徒の自信を引き出し、生徒が積極的に学校生活を送れるよう促す。</p> <p>(3) 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止と早期発見・対応に努め、きめ細かく相談や支援を行う。</p> <p>(4) 不登校生徒などの支援のため、家庭との連携を密にする。また、必要に応じて、地域の関係機関と連携する。</p> <p>(5) 遅刻・早退・欠課等の多い生徒には、声掛けや面談、保護者等との連携により改善に取り組む。</p> <p>(6) 日頃から駐車・駐輪指導を行うとともに、交通安全指導を行い、交通安全の心得などを重点的に指導する。</p> <p>(7) 学校敷地内喫煙と未成年者喫煙の防止、スマートフォン等の使用マナー向上、薬物乱用防止、感染症対策への意識向上などのための学習や啓発に取り組む。</p> <p>【成果指標】</p> <p>生徒の問題行動やいじめの発生件数0件をめざす。発生した場合は、速やかに対処し、かつ継続的に対応していく。</p>		◎
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
社会性の育成	<p>(1) 社会人として必要な社会性と一般常識、仕事や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。</p> <p>(2) 学校行事の充実、校外行事への積極的な参加に努め、生徒の良好な人間関係の醸成と高校生活の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1) 登校時や職員室への入室時など様々な機会をとらえて挨拶を促し、コミュニケーション能力を高めるきっかけとする。</p> <p>(2) 在学中も働くことを奨励し、必要な時は一緒に仕事を探すなどして、アルバイトを含め仕事に就いている生徒を増やし、生徒の仕事と学校の両立を支援する。</p> <p>(3) 生徒の進路希望に応じて、個別指導を実施し、漢字や計算などの基礎学力を付けたり、作文・小論文・履歴書などの書き方や面接の指導をしたりして、希望進路の実現を支援する。</p> <p>(4) 就労希望者や卒業時進路未定者を支援し、卒業後もできる限りの支援を継続する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 就労を希望する生徒については、ハローワーク等とも連携し、仕事に就いている生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>(2) 卒業時に進学も就職もしない生徒を0にする。</p> <p>(3) 年間計画に沿って学校行事を着実に実施するとともに、定時制通信制教育関係の校外行事等に参加する。</p>	(年度末および適宜記載)	◎ ◎ ◎
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
チームワークの向上と環境整備	(1) 生徒の状況や各自の仕事の進捗状況等についての情報共有・情報交換を一層励行し、協力して仕事を進める。 (2) 教職員が生徒に向き合う時間を確保し、職務に邁進できるよう、職員室の整理整頓と総勤務時間縮減に努める。 【活動指標】 (1) 毎日勤務時間の始めに打ち合わせを実施する。必要に応じ、授業終了後、勤務時間終了前までにも実施する。 【成果指標】 (1) 全教職員が毎日の定時退校を徹底し、毎月の時間外労働時間をほぼ0時間とし、月45時間・年360時間を超える時間外労働をする教職員を引き続き0人とする。 (2) すべての会議は勤務時間開始後、生徒の登校までに実施し、60分以内に終了する。 (3) 全教職員が年次有給休暇を15日以上取得する。	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員としての資質向上	学び続ける教職員としての意識を高く持ち、校外研修の還流や小研修とともに、始業前の時間帯を生かして積極的に研修に取り組む雰囲気を高め、教職員としての資質・能力向上を図る。 【活動指標】 各自が参加した研修会や担当者会議の内容で汎用性の高いものを中心に、資料等の回覧を行う。 【成果指標】 年8回程度、職員会議後を中心に、時期に応じたテーマによる研修・小研修を行う。	(年度末および適宜記載)	◎
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)